

12. 日本産業連関経済モデルの開発研究（投資編）

イ．調査の目的

平成 19 年度から 2 年間かけて作成した日本産業連関経済モデルおよびそのデータを用いて投資の日本経済に果たした役割について考察した。

ロ．調査結果の概要

第 1 章では、投資分析を行うに当たり重要となる投資関数に用いる説明変数について検討した。そして投資関数の説明変数として必要不可欠と考えられる資本ストックについて、幾つかの試算方法を検討した。本研究会では、当研究所と提携関係にあるメリーランド大学 INFORUM 研究所のクロッパー・アーモン教授の提唱する穴あきバケツ法による推計データを採用して資本ストックデータを計算した。そして、同データを説明変数とする投資関数を推計、モデルに組み込み、2020 年まで予測した。

第 2 章では、簡易延長表を延長表基準で組み替えたデータの特性をみた。具体的には、輸入浸透度をモデルで使用する輸出入、生産データで計算した場合と生産統計、通関統計等を用いて計算した場合を比較して、それぞれが整合的な動きを示しているかを検証した。その結果、レベルに差はあるものの変化の方向性はある程度一致していることを確認した。さらに、対外直接投資により逆輸入が増加した結果、それが中間投入構造にどのような影響を与えたかを試算した。

第 3 章では、投資関数に資本ストックデータを説明変数とする投資関数を推計、モデルに組み込み、新規投資がなくなった場合の経済効果を試算した。

さらに、今後モデルの拡大、精緻化を図る上で、参照すべきモデルを明らかにするために、既成の主要産業連関ダイナミック・モデルの開発事例をサーベイし、付論として取りまとめた。これにより、過去のモデルの考え方、関数の設定などのリファレンスが平易となると期待される。